

各科目群の授業科目の概要

総合科目

大学での教育は、狭い範囲の専門知識を習得させることだけを目的としているのではない。幅広い視野、深い思考力、斬新な創造力、そして的確な判断力に基づいて専門知識を主体的に活用できるばかりでなく、幅広い教養をベースに倫理や覚悟を持つ人材の養成を重要な課題としている。

総合科目は、総合基礎科目と総合テーマ科目の2つの科目群から構成されている。学期を追って、系統的な学修ができるように配置されているので、各個人の関心や各学科のどのコースに進路をとるかで補完され、充実した学修が期待できる。専門科目群と有機的に結びつけて欲しい。

総合基礎科目では、大学での学修に必要な不可欠な基本的な要素が集中的に学修できる。学修に必要な不可欠なパソコン操作や情報処理の基礎的能力開発では、グレードをつけた科目が配置され能力に応じた教育が受けられる。大学生としての心構えやマナー、大学で学ぶために必要なノートテイキングや図表の活用といったスキル、教養の基本の一つである資料の読み込み、発表、レポート作成などの力を身につける場が基礎ゼミナールで、ここでの訓練が後の学修の足がかりとなろう。

総合テーマ科目では、経済学、経営学とは異なる学問的視座からさまざまな人間活動に光を当て、複眼的な視点から社会的に提起される問題を学際的に明らかにしてゆく。「問題関心」の高度化を図るべく「心身と社会」「メディアと文化」「人間と環境」「国際化と異文化理解」のテーマごとに「全体の視点」「テーマと関連する問題」「具体的問題」と総体的に深めてゆく。

キャリア科目

キャリア科目は、関東学院大学の学生として、経済学部学生として、多様な社会の中で『私』、『私たち』を積極的に位置づけ、そのための現在と未来をデザインする目的で設置されており、[全学キャリア科目]と[学部キャリア科目]に大別される。

[全学キャリア科目]は、全学部共通の内容で、関東学院大学の学生としての現在と未来について考える科目群となっている。詳しくは、「全学キャリア教育科目について」を参照してほしい。

[学部キャリア科目]は、経済学部学生として身につけてほしいキャリアスキルを学ぶ科目群となっている。

外国語科目

〈2017年度以降入学生〉

外国語科目は、異なる価値観を認めながら自分の意見を発表できる人格の形成、及び実用的な外国語運用能力の養成を目的に設置されている。外国語科目は[選択必修英語A][選択必修英語B][選択英語A][選択英語B][英語以外の外国語][外国人留学生選択必修科目]に大別される。

[選択必修英語A]は、1年次に配置され、指定クラスで受講しなければならない。卒業までに必ず規定単位数を満たさなければならない。

[選択必修英語B]は、2年次に配置され、指定クラスで受講しなければならない。卒業までに必ず規定単位数を満たさなければならない。再履修となった場合は、[選択英語A]および[選択英語B]で代替することができる。また4単位まで[英語以外の外国語]で充当できる。

[選択必修英語A]と[選択必修英語B]は、習熟度別クラス編成により、無理なく各自の英語力を伸ばすことができるプログラムとなっている。1年次はオリエンテーション期間に実施するプレイズメント・テストの結果に応じて、「フレッシュャーズ・イングリッシュⅠ・Ⅱ」または「フレッシュャーズ・イングリッシュ(上級)Ⅰ・Ⅱ」と「英会話Ⅰ・Ⅱ」または「英会話(上級)Ⅰ・Ⅱ」(各1単位、計4単位)を履修する。再履修となった場合は、さらに基礎的なことを学ぶ[選択英語A]の「基本英語Ⅰ・Ⅱ」(「フレッシュャーズ・イングリッシュⅠ・Ⅱ」の代わり)と「基本英会話Ⅰ・Ⅱ」(「英会話Ⅰ・Ⅱ」の代わり)で代替する。2セメスターからグローバル人材育成プログラムに入る者は、「フレッシュャーズ・イングリッシュⅡ」に代わり「ESPⅠ」(1単位)を、「英会話Ⅱ」に代わり「English CommunicationⅠ」(1単位)を、さらに2年次の[選択必修英語B]の1科目(2単位)の代わりに「ESPⅡ」を1学期早く選択し、2セメスターでは合計4単位を履修する。

2年次は1年次の秋学期の最後に実施するプレイズメント・テストの結果に応じて、「マス・メディアの英語Ⅰ・Ⅱ」「オーラル・イングリッシュⅠ・Ⅱ」「国際関係と地域研究の英語Ⅰ・Ⅱ」「言語と文学の英語Ⅰ・Ⅱ」「上級英語Ⅰ・Ⅱ」「上級英語コミュニケーションⅠ・Ⅱ」より4科目(各2単位、計8単位)を履修する。グローバル人材育成プログラムに進んだ者は、「ESPⅢ」「English CommunicationⅡ・Ⅲ」の3科目(各2単位、計6単位)を3セメスターで履修する。基礎的なことを学びたい場合は、「選択英語A」で代替することができる。ただし、「選択必修英語A」の代わりに履修した科目以外の科目とする。

[選択英語B]は、各自の興味・関心、ニーズに応じて、1年次から4年次まで履修することができる。1、2年

次に[選択必修英語A]や[選択必修英語B]と並行して履修し、さらに卒業要件最低単位数を満たした後も3、4年次に履修し続けることで、卒業まで語学力を伸ばし続けるよう心がけて欲しい。

[英語以外の外国語]ではドイツ語、フランス語、ロシア語、スペイン語、中国語、ハンゲルを学ぶことができる。各々の言語に「〇〇語初級Ⅰ・Ⅱ」「〇〇語初級会話Ⅰ・Ⅱ」(各科目1単位)「実用〇〇語Ⅰ・Ⅱ」(各科目2単位)がある。初心者は、「〇〇語初級Ⅰ・Ⅱ」「〇〇語初級会話Ⅰ・Ⅱ」のうち1科目以上を履修した後、「実用〇〇語Ⅰ・Ⅱ」を履修する。なお、卒業要件外国語12単位のうち4単位までを[英語以外の外国語]で充当することもできる。ただし、1年次配当分の[選択必修英語A]の4単位については、[英語以外の外国語]で代替することはできない。

[外国人留学生選択必修科目]では、卒業要件として規定されている外国語12単位の代替科目として、「日本語理解Ⅰ・Ⅱ」「日本語表現Ⅰ・Ⅱ」(各科目1単位)と「論文・論説の日本語Ⅰ・Ⅱ」「日本語・言語と文化Ⅰ・Ⅱ」(各科目2単位)を用意している。ただし、外国語12単位すべてを[選択必修英語A][選択必修英語B]で充当することができる。[選択必修英語A]は[選択英語A]で、[選択必修英語B]は上記以外の[選択英語A]と[選択英語B]で代替できる。

法学科目

「法学概論(国際法を含む)Ⅰ・Ⅱ」は他の法学科目への入門の役割を与えられている。そこでは、法とは何か、法と他の社会規範の関係、法の体系はどのように構成されているか、法を対象にしていかに学問が成立するか等の基礎的な問題が扱われるほか、実定法の基礎的な知識も講義されることになる。

「法学概論」を除く法学科目は、その名称が示すように、実定法の各分野に照応している。わが国の法の基本的な骨組みをなす6つの法典、すなわち、憲法、民法、商法(特に会社法)、刑法、民事訴訟法、刑事訴訟法のうち、刑事法と手続法以外のものについては、経済学部でも一通りの知識が得られるようになっている。その上、経済活動に深く係わりをもつ行政、労働、経済関係の法規についても学ぶことができる。

これら法学科目の履修について、一般的なものから特殊なものへという伝統的な学び方が正しいとすれば、まず「法学概論」、次に基礎的な法の分野を対象とする「憲法」「民法」「会社法」、最後に「行政法」「労働法」「経済法」を学ぶことになる。履修にきまった順序というものがあるわけではないので、興味の持てるものから履修するという方法もある。たとえば、企業経営に関する法律を学びたいのであれば「会社法」や「経済法」を履修するのが望ましく、従業員に関する法律を学びたいのであれば「労働法」を履修するのが望ましい。また、将来、公務員になりたいのであれば「憲法」や「行政法」を履修するのが望ましい。しかし、通常の順序と逆に履修する場合には、多少の努力が必要となるであろう。

経済学科目

《経済学科のコース制について》

経済学科には、専門分野のコースとして産業経済コース、公共経済コース、情報経済コース、国際経済コースという4コースがある。また、複眼的に経済学を学びたい学生にはワーク&ライフコース、国際化と地域社会コースという複合テーマの2コースが用意されている。経済学科の学生は2年(3セメスター)進級時にいずれかのコースを選択し、2年(3セメスター)以降4年(8セメスター)まで3年間各コースで勉強することになる。

経済学科目は、コースに沿って配当されている。つまり「大学を卒業したらどのような職業に就くか」を考え、希望する職業に就くためには「大学でどのような科目を・どのような順序で勉強するか」が、はっきりとわかるように科目が編成されている。これによって、学生は目標をもって、やさしい基礎的な科目からむずかしい応用的な科目へ、順序よく体系的に勉強できるようになっている。

経済学科目は、コース共通科目とコース科目の2つに大別される。その詳細は次のとおりである。

【コース共通科目】

コース共通科目は、2年生になってどのコースを選択するとしても経済学科の学生として必要な科目である。

・入門科目と導入科目

入門科目は、経済学科に共通する入門的な事項が勉強できる科目である。1セメスター配当の登録必須科目である「経済学入門」と、2セメスター配当の登録必須科目である「プレゼミナル」、さらに1～8セメスター配当の科目として「現代経済Ⅰ・Ⅱ」、「経済のための数学入門」が開講されている。

導入科目は、経済学の専門科目への導入的な学びの科目である。2～8セメスター配当の科目として、「経済統計入門」、「財政学入門」、「アメリカ経済入門」が開講されている。

・実践経済科目とグローバル人材育成プログラム科目(GP科目)

実践経済科目は、生きた経済の変動や具体的な課題を理解することを通じて、現実の問題を扱う実践力を養成する科目である。2～8セメスター配当の科目として「経済記事を読む」、「国際協力の現場」、「神奈川の

中小企業」、3～8セメスター配当の科目として「グローバルビジネスの実際」、「が開講されている。

GP科目の経済学専門科目として、4～8セメスター配当科目として、経済学の基本を英語を活用して実践的に学ぶ「Japan Studies（経済）」、「Japan Studies（実践）」が開講されている。

・基幹科目A（基礎科目）と基幹科目B

基幹科目Aは、どのコースを選択する場合にも必要とされる経済学の基本的な科目である。基幹科目A（2～8セメスター）に配置されている「社会経済学Ⅰ・Ⅱ」、「基礎ミクロ経済学」、「基礎マクロ経済学」、「経済政策論Ⅰ・Ⅱ」、「経済史Ⅰ・Ⅱ」、「統計学概論Ⅰ・Ⅱ」の10科目は、いわば「基礎の基礎」となる重要な科目である。そのため、選択必修科目として位置づけられており、これらの中から10単位を修得する必要がある。複合テーマの2コースにおいては、基幹科目Aと同じ科目が基礎科目という科目区分に用意されており、同じく選択必修科目として10単位を修得する必要がある。

基幹科目B（3～8セメスター）の科目は、「基礎の発展」科目であり、実践経済科目とグローバル人材育成プログラム科目を含めて、これらの中から16単位を修得する必要がある。複合テーマの2コースでは、基幹科目Bに当たる科目群は存在せず、その代わり後述する複合テーマ科目のコース共通科目が用意されている。

【複合コースのコース共通科目】

複合コースのコース共通科目には、経済学科目のコース共通科目群と複合テーマ科目のコース共通科目群がある。

・経済学科目のコース共通科目群

上記【コース共通科目】で説明した入門科目、導入科目、実践経済科目、グローバル人材育成プログラム科目および基幹科目A同様の科目が用意されている基礎科目があり、これらは他コースと同様に、2年生になってどのコースを選択するとしても経済学科目の学生として必要な科目である。

・複合テーマ科目のコース共通科目群

他のコースと異なり、複合テーマ科目のコース共通科目群は、複眼的に経済学を学びたい学生のために用意された科目区分であり、基本科目とグローバル人材育成プログラム科目に大別される。これらについては、下記の複合テーマ科目欄で説明する。

【コース科目】

コース科目には、学生が選択したコースについて系統的に学修し、各コースの教育目標が達成される科目が配当されている。卒業要件としては、選択したコースの科目から14単位を修得する必要がある。

【複合コースのコース科目】

複合コースのコース科目には、経済学科目のコース科目群と複合テーマ科目のコース科目群がある。

・経済学科目のコース科目群

他のコースと同様に、選択したワーク&ライフコースと国際化と地域社会コースについて専門分野のなかから系統的に学修し、各コースの教育目標が達成される科目が配当されている。卒業要件としては、16単位を修得する必要がある。

・複合テーマ科目のコース科目群

他のコースと異なり、複合テーマ科目のコース科目群は、複眼的に経済学を学びたい学生のために用意された科目区分であり、コースの選択必修科目と関連する経営学の視点を学ぶ科目が用意されている。これらについては、下記の複合テーマ科目欄で説明する。

経営学科目

経営学科目は、経済学の関連分野としての経営学を学ぶことができる科目が配置されている科目区分である。関心に応じて履修が可能である。専門分野4コース選択者は、卒業要件として、ここで4単位を修得する必要がある。

複合テーマ科目

複合テーマ科目は、複眼的に経済学を学びたい学生のためのワーク&ライフコースと国際化と地域社会コースを選択した学生に関係する科目区分である。

複合テーマ科目には、複合テーマのいずれかのコースに沿った専門科目および関連する経営学分野の科目が配当

されている。複合コースを選択した学生は、1年次に経済学科目で経済学の基礎を学んだのち、この複合テーマ科目によって、コース毎の専門科目および経営学関連分野の科目を学ぶことができ、複眼的な視点を順序よく体系的に勉強できるようになっている。

複合テーマ科目は、コース共通科目とコース科目の2つに大別される。その詳細は次のとおりである。

【コース共通科目】

専門分野の4コースのコース共通科目が経済学科目のみであるのに対して、複合テーマの2コースのコース共通科目には、経済学科目と複合テーマ科目の2区分がある。1年次で経済学科目のコース共通科目で基礎的な科目を学んだのち、他4コースが基礎の発展として経済学科目の基幹科目Bへと進むのに対し、複合2コースでは複眼的な視点の養成としてこの複合テーマ科目の2コース共通に必要とされる科目群へと進む。複合コース選択者は、ここで選択必修科目6単位を含む12単位を修得する必要がある。

・基本科目

基本科目には、地域、自然、社会、コミュニケーションといった経済学以外の専門的な視点から社会で共生して生きるための基礎的な事項を学ぶ選択必修科目および自律して生きるための経営学の入門的な科目が用意されている。

・グローバル人材育成プログラム科目

複合テーマ科目のコース共通科目には、「ビジネス英語」「言語と社会」「Englishes for International Communication」のグローバル人材育成プログラム科目が配置されている。「言語と社会」は選択必修科目に含まれる。

【コース科目】

専門分野の4コースのコース科目が経済学科目のみであるのに対して、複合テーマの2コースのコース科目には、経済学科目と複合テーマ科目の2区分がある。前者では経済学の視点を学び、後者では複眼的な視点の学びとして2コースの専門的な内容に沿った選択必修科目および関連する経営学分野を学ぶ。複合コース選択者は、ここで選択必修科目10単位を含む12単位を修得する必要がある。

《産業経済コース》

産業と経済に関する総合的な能力をもつ人材を育成するコースである。

経済はモノ（財）とサービスを生産する産業活動を基礎として成り立っている。このコースでは、とりわけ変動の激しい日本の産業構造や企業活動と労働のあり方を、さらには今日解決が急がれている環境（エコロジー）問題などを中心に勉強する。

コース科目として、3～8セメスターに、「産業論Ⅰ・Ⅱ」、「労働経済論Ⅰ・Ⅱ」、「経済地理Ⅰ・Ⅱ」、「産業組織論Ⅰ・Ⅱ」、「農業経済論Ⅰ・Ⅱ」、「地域経済論」、「環境経済学Ⅰ・Ⅱ」、「中小企業論Ⅰ・Ⅱ」、「産業経済講座〔技術・製品開発と企業〕」、「産業経済講座〔多国籍企業分析〕」、「少子化社会の経済学」、「多国籍経営における企業間取引関係」が配置されている。

このコースが想定している進路としては、製造・サービスなどの民間企業、環境関連ビジネス、各種公務員などがある。

《公共経済コース》

公共部門の役割を学び、公務員などに求められる政策立案能力をもつ人材を育成するコースである。

今日の経済では、政府（公共）部門もきわめて大きな比重を占めている。このコースでは、政府の経済政策、財政政策と地方自治、地方財政、さらに私たちの生活に密接に関係している福祉、保険、医療などを勉強する。

コース科目として、3～8セメスターに、「財政学Ⅰ・Ⅱ」、「地方財政Ⅰ・Ⅱ」、「社会政策Ⅰ・Ⅱ」、「社会保障論Ⅰ・Ⅱ」、「環境経済学Ⅰ・Ⅱ」、「公共経済学Ⅰ・Ⅱ」、「交通論Ⅰ・Ⅱ」、「地域開発への招待」、「格差と公共政策」が配置されている。

このコースが想定している進路としては、各種公務員、税理士、金融や製造などの民間企業、福祉関連ビジネス、NPO（非営利組織）などがある。

《情報経済コース》

基礎的な情報処理能力と経済分析能力・経済予測能力をもつ人材を育成するコースである。

IT（情報技術）革命が進展し、経済はデジタル情報との結びつきを飛躍的に強めている。このコースでは、情報と金融をキーワードに、情報化する経済のなかでもとくに貨幣経済、金融の動きに焦点をあて、数量的な経済分析・経済予測を中心に勉強する。

コース科目として、3～8セメスターに、「金融論Ⅰ・Ⅱ」、「産業論Ⅰ・Ⅱ」、「国際金融論Ⅰ・Ⅱ」、「計量経済学Ⅰ・Ⅱ」、「情報処理応用論Ⅰ・Ⅱ」、「パソコン・データ解析Ⅰ・Ⅱ」、「金融工学Ⅰ・Ⅱ」、「情報経済論Ⅰ・Ⅱ」、「経済工学」、

「経済・経営のための情報理論、情報統計科学」、「医療経済学」、「情報と経済活動」が配置されている。

このコースが想定している進路としては、銀行・証券などの民間企業、ファイナンシャル・プランナーや証券アナリストなどの資格を生かす職業、システムエンジニア、研究機関などがある。

《国際経済コース》

国際的な視野をもち、世界で活躍できる人材を育成するコースである。

経済のグローバル化の進展によって、国際的な視野から経済現象をとらえることが切実に求められている。このコースでは、多国籍企業、国際貿易と国際金融のほか、世界の各地域経済の実態や途上国における開発経済、さらには世界経済と日本経済とのかかわりなどを勉強する。

コース科目として、3～8セメスターに、「国際経済学Ⅰ・Ⅱ」、「国際金融論Ⅰ・Ⅱ」、「世界経済論Ⅰ・Ⅱ」、「国際貿易論Ⅰ・Ⅱ」、「アメリカ経済論Ⅰ・Ⅱ」、「ヨーロッパ経済論Ⅰ・Ⅱ」、「アジア経済論Ⅰ・Ⅱ」、「開発経済学Ⅰ・Ⅱ」、「中国経済論」、「国際経済事情」、「経済統合論」が配置されている。

このコースが想定している進路としては、製造業や商社などの民間企業、外資系企業、国際機関（ボランティア団体）などの職員、NGOなどがある。

《ワーク&ライフコース》

経済学と人間諸学・社会学の知識を修得し、複眼的な視点から経済活動、自己実現、社会全体の福祉について考え、倫理観を持って適正なワーク・ライフ・バランスを実践できる人材を育成するコースである。「労働経済論Ⅰ・Ⅱ」、「社会政策Ⅰ・Ⅱ」、「社会保障論Ⅰ・Ⅱ」など、わたしたちの働き方や豊かな社会の実現を考える科目群を中心に据え、経済活動における個人と企業、社会福祉のありかたについて勉強する。

複合テーマに関するコース科目として、「ワーク&ライフ・バランス論」、「ソーシャルデザイン」、「仕事のメンタルヘルス」、「仕事とジェンダー」、「仕事と法」、「市民スポーツ文化論」等に加えて、「人的資源管理」や「経営倫理」、「組織とイノベーション」等、経営学関係の科目も配置されている。

このコースが想定している進路としては、民間企業における人事、総務、福利厚生、広報の担当者、福祉関係ビジネス、NPO（非営利組織）、製造業・流通・サービス企業、小商いでの起業などがある。

《国際化と地域社会コース》

経済学の知識を身に付け、グローバル、ローカル、環境という複数の視点から、持続的な経済発展について考えることができ、国内外の人々と接する職場や地域の人々と協業する現場において活動できる人材を育成する。異なる文化・言語環境に基づく世界の多様性のみならず地域社会への理解を深める勉強をするため、「国際経済学Ⅰ・Ⅱ」「開発経済学Ⅰ・Ⅱ」のほかに「地域経済論」や「地方財政Ⅰ・Ⅱ」などを学ぶ。

複合テーマに関するコース科目として、「東アジア関係論」、「異文化間交易史」、「自然地理学」、「日本のなかのアジア」、「ヨーロッパ社会論」、「中国社会論」、「環境と地域社会」等に加えて、「国際マーケティングⅠ・Ⅱ」や「戦略とイノベーション」、「サービス経営Ⅰ・Ⅱ」等、経営学関係の科目も配置されている。

このコースが想定している進路としては、国際機関・経済協力に関するNPOやNGO、地方公務員、海外との取引のある民間企業などがある。

プレゼミナール

プレゼミナールは、1年次秋学期に開講される、少人数の学生に限定して行われる専門科目である。所属するプレゼミナールは、基礎ゼミナールと同じ曜日・講時に開講されているクラスとなる。

プレゼミナールでは、学生を複数のグループに編成し、グループ単位でのテーマ学習を行う。そして、学習の成果を学期内に2回開催される発表会に参加して発表する。発表会はプレゼン大会かディベート大会のいずれかの形式で開催される。また、複数のプレゼミナールが合同で開催する。したがって、これら発表会へ参加する準備もプレゼミナール内で行う。学習のテーマや参加する発表会の形式、他のどのプレゼミナールと合同で行うかなどは、所属するゼミナールによって異なる。

プレゼミナールの目的は、上記の発表会に参加することと同時に、2年次春学期からのゼミナールでの学修を踏まえ、所属する分野の専門教育の基礎を学ぶことにある。また、プレゼミナールでは、出席が評価の前提となるので、発表会も含めて毎週の授業に出席し、活動に積極的に参加することが強く求められる。

専門ゼミナール

ゼミナールは、少人数の学生に限定して行われる演習である。学生は2年次（3セメスター）春学期に各ゼミナールの募集に応募し、卒業までの期間、いずれかのゼミナールに継続して所属する。ゼミナールは自分の希望するゼミナールを選択できる。しかし、ゼミナールには定員（15名程度）があり、希望者が多い場合には選考がおこなわれ、所属を認められない場合もある。選考は面接の他、1年次の成績などが参考にされる場合もあるので、1年次の科目履修は十分に注意する必要がある。

ゼミナールⅠは登録必須科目であり、必ず履修登録をしなければならない。つまり、必ずいずれかのゼミナールに所属しなければならない。もし、選考によって所属ゼミナールが決まらなかった場合は、各自の希望を踏まえた

上で抽選により所属先が決められる。

ゼミナールでは学生は週1回のゼミナールに参加して、テキストを読み、またそれぞれの課題について資料の整理や分析を行い、4年次には卒業論文作成をするなどの活動を行う。ゼミによっては各種のゼミナール大会に参加する。このようにゼミナールには2年半所属し、自分の興味に応じたより深い勉強をおこなう場であることから、経済学部における教育・研究の中心的存在であるといえる。

履修科目決定モデル

1. はじめに

大学では、一定の条件はありますが、高校までとは異なり、勉強しようとする科目を自由に決めることができます。しかし、自由に選択しなさいと言われても、どうすればよいのか分からないという学生が多いので、1年次生のために履修科目決定モデルを作りました。これを参考にしながら、『履修要綱』にしたがってあなたの履修科目を決めてください。

2. 経済学科の履修科目決定モデル

(1) 履修科目決定のポイント

- ① 春学期は1セメ配当科目および1-2セメ配当科目、1-8セメ配当科目、秋学期は1-2セメ配当科目および1-8セメ配当科目、2-8セメ配当科目を履修できる
- ② 春学期、秋学期とも最大で22単位まで履修できる
- ③ クラス指定された科目(必修科目、登録必須科目)を軸にする

クラス指定された科目は、必ず履修しなければならない科目です。オリエンテーション時に配布する『経済学科クラス一覧』に各自のクラスが記載されています。『経済学科クラス一覧』から、自分の学籍番号を探して履修するクラスを確認し、『経済学部 授業時間割表』から該当するクラスを見つけ出しマーカーで塗り潰します。

(例)

『経済学科クラス一覧』

学籍番号	春学期・秋学期共に開講			春学期開講			秋学期開講
	健スポ	英会話	フレッシューズ イングリッシュ	経済学 入門	基礎 ゼミナール	KGUキャリア デザイン入門	プレ ゼミナール
217D1501	A(火・1)	経1A(水・3)	経1C(木・2)	A(水・1)	吟谷(木・2)	A(月・1)	(木・2)
217D1502	B(火・1)	上級A(水・2)	経1M(火・3)	B(水・1)	野中(金・2)	C(月・2)	(金・2)

アルファベットは指定されたクラスを表し、()内は該当するクラスがある曜日・講時を表します。

※例えば上記の場合、学籍番号 217D1501 の学生は、健康スポーツ I・IIは火曜日の1講時に開講している「A」クラスが指定されていることを表しています。

④ 専門科目は、入門科目、基幹科目A、導入科目を優先する

専門科目については、1セメ(1年次春学期)は入門科目を、2セメ(1年次秋学期)は基幹科目A、入門科目、および導入科目を優先して履修します。2セメでは、余裕があれば、実践経済科目を履修するのもよいでしょう。

⑤ 総合科目は1セメに総合基礎科目、2セメに総合テーマ科目を優先する

卒業要件を満たすためには、専門科目だけでなく、総合科目も履修しなければなりません。1セメは総合基礎科目を、2セメは総合テーマ科目を優先的に履修すると良いでしょう。

⑥ 春学期をベースに秋学期を考える

春学期は、自らの興味関心を考えつつ、クラス指定科目を軸に、その前後の時間帯に、専門科目や総合科目を配置しながら時間割を組みます。秋学期は、春学期に履修した科目のウラにあたる科目を選択すると時間割を組みやすいといえます。春学期に履修した科目の担当者は秋学期も同一曜日講時で別の科目を担当していることが多いので、その科目を履修すると良いでしょう。例えば、春学期に水曜5講時の「現代経済 I C(岩戸)」を履修した場合、秋学期も同じ水曜5講時の「現代経済 II C(岩戸)」を履修するといったイメージです。もちろん、春学期、秋学期で全く別の科目を履修しても構いません。例えば、春学期に水曜5講時の「現代経済 I B(岩戸)」を履修して、秋学期は木曜3講時の「現代経済 II A(中泉)」を履修するといったことも可能です。

⑦1日の履修科目数は3科目前後にする

大学の授業は、予習復習を前提に成り立っていますので、1日にあまり多くの科目を履修するのは好ましくありません。クラス指定科目の配置にもよりますが、1日3科目程度を目安にすると良いでしょう。

(2)履修科目決定ステップ

①春学期

[ステップ1]クラス指定科目

経済学科は次の科目がクラス指定されています。これらの科目は指定されたクラスの履修登録を行わなくてはなりません。指定された全ての科目をマークすることができれば、春学期に6科目9単位の履修科目が決定します。

【春学期】 合計9単位

- ・健康スポーツ I (1単位)
- ・英会話(初級・中級・上級) I (1単位)
- ・フレッシュャーズ・イングリッシュ(初級・中級・上級) I (1単位)
- ・基礎ゼミナール (2単位)
- ・KGUキャリアデザイン入門 (2単位)
- ・経済学入門 (2単位)

※あなたはこの他に、『経済学部 授業時間割表』にマークされていない曜日・講時の授業科目を、春学期に13単位まで履修することが出来ます。

[ステップ2]専門科目の入門科目

次に、1セメスターから開講されている「入門科目」を選択しましょう。経済学科目ではコース共通科目の「入門科目」として「経済学入門」以外に「現代経済 I・II」及び「経済のための数学入門」の3科目が開講されています。また、法学科目にも「法学概論(国際法を含む) I・II」、「憲法 I・II」があります。これらの科目の中からコース共通科目の「入門科目」を中心に、2科目履修すると良いでしょう。

[ステップ3]総合基礎科目

総合科目の「総合基礎科目」の中で興味のあるものを春学期に開講されている科目から4科目選択してみましょう。なお、1セメスターのみの開講科目である、「文章を書く」は今後の学習を円滑に進めるためにも、ぜひ履修して欲しい科目ですし、「パソコン入門」もパソコンに慣れていない人にはお勧めです。

※上記[ステップ3]までで、春学期21単位が決まりました。残る1単位は、大学生らしく第二外国語に挑戦してみてください。

ちなみに、春学期に履修できる1単位科目には、英語以外の外国語の「各国語(ドイツ語/フランス語/ロシア語/スペイン語/中国語/ハンブル)初級 I・II」「各国語(ドイツ語/フランス語/ロシア語/スペイン語/中国語/ハンブル)初級会話 I・II」があります。

なお、クラス指定科目の配置の関係で、実際には、ここまでで21単位分履修できないこともあるでしょうから、その部分については、『履修要綱』の「経済学科科目区分表」を見ながら、1年次に配当されている科目から何を履修するかを考えてください

②秋学期

[ステップ1]クラス指定科目

経済学科生は次の科目がクラス指定されています。これらの科目は指定されたクラスの履修登録を行わなくてはなりません。全ての科目をマークすることができれば、秋学期に4科目5単位の履修科目が決定します。

【秋学期】 合計5単位

- ・健康スポーツ II (1単位)
- ・英会話(初級・中級・上級) II (1単位)
- ・フレッシュャーズ・イングリッシュ(初級・中級・上級) II (1単位)
- ・プレゼミナール (2単位)

※英語上級クラスの学生で秋学期から「グローバル人材育成プログラム」の英語の履修を希望しない人は、「英会話(上級)

Ⅱ(経1M)」「フレッシュャーズ・イングリッシュ(上級)Ⅱ(経1M)」を履修登録します。

※秋学期から「グローバル人材育成プログラム」の英語の履修を希望する人は、「English Communication I」(水・2、1単位)「ESP I」(金・3、1単位)「ESP II」(月・3、2単位)の3科目を履修登録します。

※あなたはこの他に、『経済学部 授業時間割表』にマークされていない曜日・講時の授業科目を秋学期に17単位(グローバル人材育成プログラム希望者は15単位)まで履修することができます。

[ステップ2] 専門科目の基幹科目A(選択必修科目)

あなたは経済学科の学生ですから、経済学科の「基幹科目A」(選択必修科目)にある「社会経済学Ⅰ・Ⅱ」、「基礎ミクロ経済学」、「基礎マクロ経済学」、「経済政策論Ⅰ・Ⅱ」、「経済史Ⅰ・Ⅱ」、「統計学概論Ⅰ・Ⅱ」の10科目(すべて2単位)のなかから、卒業までに10単位を修得しなければなりません。したがって、これらの科目は他の科目に優先して履修する必要があります。1年次秋学期にクラス指定科目の時間と重複しない限り、これらの科目を4科目程度履修するようにしましょう。「授業時間割表」から上記の科目を探してマークします。

なお、どうしても履修できないのであれば、2年次に上記科目の履修を考えてください。

[ステップ3] 専門科目の入門科目、導入科目

次に、「入門科目」を選択しましょう。経済学科目ではコース共通科目の「入門科目」として「経済学入門」以外に「現代経済Ⅰ・Ⅱ」及び「経済のための数学入門」の3科目、「導入科目」として「財政学入門」「経済統計入門」が開講されています。また、法学科目にも「法学概論(国際法を含む)Ⅰ・Ⅱ」、「憲法Ⅰ・Ⅱ」があります。これらの科目の中から、2科目程度履修するとよいでしょう。

[ステップ4] 総合テーマ科目

総合科目の「総合テーマ科目」の中で興味のあるものを秋学期に開講されている科目から2科目、選択してみましょう。

※上記[ステップ4]までで、秋学期21単位が決まりました。残る1単位は1セメスターに第二外国語を履修した場合は、同科目のⅡを履修しましょう。第二外国語の履修をしていない場合は、キャリアスキル[数学]Ⅰ、キャリアスキル[言語]Ⅰを履修するとよいでしょう。

ちなみに、秋学期に履修できる1単位科目には、学部キャリア科目の「キャリアスキル[言語]Ⅰ」と「キャリアスキル[数学]Ⅰ」の2科目と、英語以外の外国語の「各国語(ドイツ語/フランス語/ロシア語/スペイン語/中国語/ハンガール)初級Ⅰ・Ⅱ」「各国語(ドイツ語/フランス語/ロシア語/スペイン語/中国語/ハンガール)初級会話Ⅰ・Ⅱ」があります。

なお、クラス指定科目の配置の関係で、実際には、ここまでで21単位分履修できないこともあるでしょうから、その部分については、『履修要綱』の「経済学科科目区分表」を見ながら、1年次に配当されている科目から何を履修するかを考えてください。